

## 夢洲まちづくり基本方針（案）パブコメ覚書

「夢洲まちづくり基本方針(案)」パブリックコメントが始まっている。今年に入り、港湾計画変更、都市計画変更、今回の「まちづくり基本方針」へと、パブコメが続いている。夢洲まちづくり基本方針は、万博や IR=カジノの行方を左右する。締切は今月の 27 日。方針案を読み、覚書的にまとめてみた。「パブコメなんて?」と言わずに、多くの人の意見を期待したい。



| ご意見募集用紙<br>(夢洲まちづくり基本方針(案)に対するご意見)          |        |
|---|--------|
| (ご意見募集期間) 令和元年10月28日(月) から 令和元年11月27日(水) まで |        |
| ご意見の提出場所<br>(該当ページ・項目名等)                    | ご意見の内容 |

・2017年8月に策定された夢洲まちづくり構想では、国際観光拠点と国際物流拠点の形成が構想されていたが、基本方針案では前者のみである。夢洲の隣り合わせのゾーンのなかで、観光拠点だけでは両者の整合性がとれないのではないか。

・国際観光拠点の形成というが、「統合型リゾート (IR) を中心としたまちづくり」と同義ではないのか。今回、国際観光拠点の形成を「SMART RESORT CITY」と言い換えたのか。なお方針案のなかに「カジノ」という言葉が見当たらない。第1期の IR 収益の約8割がカジノからであるが、市民から批判の強い「カジノ」を意識的に隠したのだろうか。国際観光拠点づくりは、事実上は IR=カジノ業者が担うのではないか。

・夢洲の空間形成の考え方として「都心部にはない非日常性と圧倒的なみどりの空間」を挙げている。オーシャンフロントの立地や景観など、夢洲のメリットは指摘するが、大阪湾の廃棄物などによる埋立地という、空間的ないし立地上の特質に起因する問題にも目を向けるべきではないか。最大の問題は国際観光拠点をめざしながら、まちづくりに防災上の配慮が欠けていることである。南海トラフ巨大地震などが懸念されており、多くの集客を期待するなら、安全面の検討が不可欠である。なによりも立地上、夢洲が国際観光拠点の場所としてふさわしいのかが問われる。

・夢洲のまちづくりに際して、環境アセスメントへの言及がスケジュールを含め、まったくない。これはスケジュール重視で、安全軽視の基本方針案の特徴でもある。夢洲の環境アセスメントは生物多様性など自然環境だけでなく、夢洲の地形や地質などを考慮した防災、安全面からの影響評価を必ず行うべきである。「安全安心なまちの実現」は、防犯面だけでなく、夢洲では防災面での視点と配慮が決定的に重要である。取組例として「災害リスクの見える化」を挙げているが、南海トラフ巨大地震などの災害リスクについても検証してもらいたい。

・スケジュール想定をみると、IR と万博、アクセスの整備が同時並行して進められる。こうした時間軸と事業の空間軸を踏まえた重層的な検討が必要である。今回新たに提起された「客船ターミナル」は、大阪市港湾局が施工するのか。また万博の跡地利用は、第1期の IR 整備の拡張と考えてよいのか。

(2019年11月12日)